

議事録

審 議 会 等 名	令和８年度 第１回ふるさと創生事業推進委員会
開 催 日	令和８年７月９日（木）
開 催 場 所	つくばみらい市役所 伊奈庁舎 ３階 大会議室
出 欠 者	出席委員：吉田和雄会長、秋田政夫副会長、山野井周一委員、 小菅新一委員、久下伸子委員、坂田清委員、福島里枝委員、 紫咲大佳委員 以上８名 欠席委員：北島重司委員、黒澤貴也委員 以上２名 市出席者：海老原副市長 大山市長公室長 みらい創生課 ・石井課長、大野課長補佐、水越主査、高木主事 産業経済課 ・新田課長補佐、佐藤課長補佐、井砂主査、織屋主事 秘書広報課 ・岡野課長補佐、菊地課長補佐、野元係長、吉谷係長 社会福祉課 ・倉持課長補佐 上下水道課 ・中村課長補佐、石引主査、須藤主幹 学校総務課学校給食センター ・成島所長、赤根主査、菅野係長
議 案	令和７年度ふるさと創生基金活用事業の決算見込み及び 令和８年度ふるさと創生基金活用事業について
議 案 概 要	【次第】 １．開会（午後２時００分） ２．副市長挨拶 ３．会長挨拶 ４．議事 令和７年度ふるさと創生基金活用事業の決算見込み及び 令和８年度ふるさと創生基金活用事業について ５．閉会（午後３時３０分） 【議事要旨】 令和７年度ふるさと創生基金活用事業の実績及び令和８年度の事業予定について、各担当課から説明し、質疑応答を行った。

【議事】

- ・ 会長が議長となり、議事について事務局及び事業担当課から説明

令和 7 年度ふるさと創生基金活用事業の決算見込み及び
令和 8 年度ふるさと創生基金活用事業について

【質疑等】

委員

シティプロモーション事業のつくばみらいカード制作について、3
万 8000 枚発行しているが、見本はあるのか。

秘書広報課

本委員会終了後、カードの実物を用意させていただく。参考として、
本会議室前方に全種類のカードが掲載されたポスターを掲示してい
る。

委員

マンホールカード作成事業について、多数のカードを印刷するとの
ことであるが、販売に関する計画はあるか。

上下水道課

マンホールカードは、下水道広報プラットフォームという団体が制
作しており、原則としてひとり 1 枚の手渡し、無料での配布が前提と
なっている。仮に販売を行った場合、カードの配布停止といった事態
が生じる可能性があるため、販売はできない。

委員

私自身、以前、別の自治体で購入した記憶があるが、今回のものと
は異なるということか。当市で扱っているものとは別物という認識で
よろしいか。

秘書広報課

秘書広報課から補足させていただく。委員から以前、デザインマン
ホールのステッカーを見せていただいたと記憶している。そのステッ
カーについては、おそらく自治体などが販売しているものと推察する
が、マンホールカード本体については販売ができない。

また、今回、千葉先生とのコラボ事業で展開している作品とのコラ
ボレーションについて、当該デザインを使用する場合、原則としてノ

ベルティグッズなどでの配布に限定されており、金銭を徴収する等、販売することができないという制約がある。したがって、これらのデザインを使用して何かを販売するといったことはできない状況。

委員

取手市では駅の近くにデザインマンホールがいくつか設置されていると認識している。これらのマンホールを、市内の全域に設置する予定はあるのか。また、まだ設置はされていないのか。

上下水道課

現在、市内で設置を想定しているのは、みらい平地区に3ヶ所、伊奈地区に1ヶ所、谷和原地区に1ヶ所である。また、設置はこれからである。

委員

アート製作ワークショップについて、申し込みが105名に対し、実際の参加者は100名であるが、この5名の差について、何らかの選定方法や基準があり、参加できなかった方がいたということか。

秘書広報課

この5名の差については、当日、参加者の方がご来場できなかったためである。結果として、ちょうど100名の方にご参加いただいたというもの。

委員

20周年のポスターについて、モデルには平成18年生まれの方が起用されているとのことであるが、こちらも選定方法や基準があったのか。

秘書広報課

広報紙等での募集に加え、知人の方々にも広くお声がけさせていただいた結果、20名の方にお集まりいただいた。

委員

市制施行20周年記念事業の令和8年度事業予定に、音楽フェス等の開催とあるが、出演アーティストは市にゆかりのある方を呼ぶのか。または、市民参加型とし、市民の中から推薦を受けた方が出演するのか。せっかく開催するのであれば、市にゆかりのある方が望ましいと思う。全国的に有名なフェスのように大規模なものとはならないと思うが、例えばジャンルが偏ることなどがあると、趣旨が違ってくるのではないかと懸念している。

秘書広報課

現在、出演アーティストの選定を進めており、どのようなターゲット層に向けて、どのような音楽を提供するかについて調整している段階。事務局としては、委員ご提案の通り、まず市の音楽活動をされている方や、市民団体の方々とのコラボレーションなども検討したところ。しかし、今回は初めての音楽フェスであり、今年度的一大イベントになると考えており、プロのアーティストのみの構成で考えている。

また、市にゆかりのあるプロのアーティストについても検討しているが、現状、そのような方々の出演が確実に実現するかどうかは、申し上げられない状況。

委員

ターゲットとなる年代層や参加者の規模、コンセプトについて伺いたい。

秘書広報課

方向性としては、子育て世代、具体的には 20 代から 50 代の方々が幅広く知っているようなアーティストを複数呼びできればと考えている。一般的なフェスのように、多くの方が詰めかけ、大変混み合うようなものというより、あくまで市民の方々がある程度ゆったりできるスペースを確保し、子連れでも楽しめるようなものを検討している。

委員

複数のプロアーティストを呼ぶと、今回の予算規模では心配であるが、その辺はうまくやりくりしてもらえればと思う。

委員

シティプロモーション事業について、これまでも申し上げたことがあるが、他の事業と比較して多額の費用がかかっていると思う。費用に見合った成果が得られているかを念頭に置きながら事業に取り組んでいただきたい。

市制施行 20 周年記念事業の音楽フェスについて、プロのアーティストを呼ぶという方針は理解したが、どこかで市民の方々が参加できるような形も模索していただけると良いと考える。

また、20 周年を記念する今回の様々な取り組みが、10 年、20 年後になって評価された際に、つくばみらい市の歴史にしっかりと残るような事業であってほしいと願っている。そして、「文化とは何か」という難しい問いはあるが、もう少し文化的なものが形として残るような、

具体的に言葉として記録されるような、市制 20 周年を記念する試みであってほしいと考える。

委員

シティプロモーション事業の、つくばみらいカード制作およびアート制作ワークショップについて、広告等も含め、SNS 等での公開を実施し、成果として約 24 万回の再生回数があったと説明があったが、これはインスタグラマーや YouTuber 等に協力していただいているのか。また、その協力は予算に計上されているのか。

秘書広報課

広告部分に関しては、金額を設定し、ターゲット層の属性を定めた上で、その層に対して広告を配信する形の予算としている。したがって、インスタグラマーの方々への謝金による発信という形ではない。

以前、委員から、そういった方々にもご協力いただき、情報発信を行うべきではないかのご意見があったが、情報発信のあり方については、今後、様々な可能性を検討しながら進めてまいりたいと考えている。

委員

市制施行 20 周年記念献立の中に「懐かしの人気給食」とあるが、これは 20 年前に人気だったものというコンセプトなのか。20 周年記念の献立としては、あまり関連性がないように感じる。

また、米粉を使ったものが既に 4 月に提供されているが、カップケーキに使われている米粉も、つくばみらい市産なのか。つくばみらい市がどれくらい米を推し出しているのか、という点が引っかかる。単なる白米やパンだけでなく、もっと米を使った工夫した料理などの方が、給食として良いのではないかと考える。

姉妹都市や友好都市とのコラボレーションも良いが、つくばみらい市は米だけではなく、野菜など様々な特産品もあるため、つくばみらい市の郷土料理を取り入れる方が、より特色が出て良いのではないか。

学校給食センター

「懐かしの給食」という献立については、20 年前というもではなく、過去 20 年間の中で子どもたちが好きだった献立を選定し、採用した。

次に、4 月の献立にある米粉のカップケーキについて、給食センターでは 1 日に 5,700 食を提供しており、その全てにおいて手作りのデザートを準備することは現状難しい状況であるため、このカップケーキは既製品を使用している。ただし、卵や乳製品のアレルギーを持つ

お子様向けには、この既製品は使用できないため、市内産の米等を使用した蒸しパンを提供している。

なお、4月の献立では、サラダに玄米を入れているほか、味噌汁の野菜は全て市内産を使用している。また、味噌汁の味噌には、JA 女性部が市内産の米麴を使って作った「母ちゃん味噌」も一部使用している。さらに、4月は唐揚げの衣にも市内産の米粉を使用するなど、米をしっかりとPRしたいという思いで献立を考案した。

お米を使ったアイデア料理について、委員の皆様にお配りしたおにぎり型のポン菓子には、金芽米を加工して作ったものである。子どもたちにもお米の魅力を知ってもらいたいという願いを込め、この月の献立は「みらいりんぞうの好きなもの給食」として、おにぎりが好きなりんぞう君が喜ぶであろうと、このオリジナルポン菓子を製作した。

郷土料理などについて、お米だけではなく、市内 17 軒の生産者の方が給食センターに直接野菜を納入していただいているため、子どもたちは新鮮な野菜を食べることができている。今後はそうした地元産の食材をさらに活用し、郷土料理なども献立に取り入れることを検討して参りたい。

委員

きらくやまテニスコートリニューアル事業に関連して、谷井田地区からきらくやまへ行く場合、特に子どもが自転車で行くには大変不安を感じる。通学路には、通学路だとわかるような表示などがあるが、きらくやまへ向かう道においても、子どもが通行しやすい雰囲気があると安心して子どもを送り出せるため、子どもが通りやすい道の整備について、ご検討いただきたい。

社会福祉課

道路関係部署と協議し、可能かどうかは申し上げられないが、検討して参りたい。

委員

給食について、ビデオレターや手紙など、生産者の方が見えるような形で子どもたちに伝えるのはどうか。生産者の顔や思いを感じることができれば、子どもたちも食べることがより楽しくなり、郷土愛の醸成にもつながると思うが、検討状況や今後について伺いたい。

学校給食センター

ビデオレターという形ではないが、毎日、給食時に使用する放送原稿を作成し、子どもたちに読んでもらっている。その中で、生産者の

方に関するコメントを定期的に載せている。

また、生産者の方の PR に課題を持っていたところであり、令和 7 年度末にホームページに生産者紹介のページを作成した。

さらに、生産者の方にも、子どもたちが自分たちの作ったものを食べている喜びを感じていただきたいと考えている。記念献立の 12 月のテーマを「地産地消」と設定しており、この日は、市内の生産者が作った野菜をふんだんに使用した献立を提供する予定である。また、生産者の方を学校に招待し、子どもたちとの触れ合いの機会を設けられるよう、調整を進めており、本日、生産者の方への手紙を発送したところ。

子どもたちが生産者の方と直接交流する場は少ないので、そうした交流の場にもつながるよう努めて参りたい。

委員

生産者の方も、子どもたちの反応が伝われば、本当にやりがいにつながると思う。

ぜひその際には、野菜だけでなく味噌を作っている女性団体の方々もご招待いただけると良いと考える。

学校給食センター

JA 女性部の方々も多数いらっしゃるため、限定的ではあるが、2 名の方に招待状をご用意している。

委員

きらくやまテニスコートリニューアル事業について、河内町だと記憶しているが、廃校になった学校の校庭にフットサルコートやスリーオンスリーのコートを作り、スポーツパークのような形で活用している事例がある。そういった取り組みも良いのではないかと考える。

委員

ポスター制作について、市民がモデルのポスターが庁舎入口に大きく提示されていたが、モデルとなった方はそのようなポスターになることを承知の上で応募され、制作されたものと思慮する。しかし、以前にも強く申し上げたことがあるが、市の特徴がもっと生かされるようなポスターの活用方法はないのかと思う。また、ひとりの人物が大きく前面に出る表現も一つの方法であると思うが、どれくらいの人か今回のポスターを受け入れることができるのか、ポスター制作について検討の余地があるのではないかと考える。

委員

シティプロモーション事業の目的について、つくばみらい市への移住と定住が大きな目的とされているが、市としては今後、どの程度の将来人口、または移住人口を目指してこの事業で PR 活動を行っているのか。

市制 20 周年記念事業における市民団体への市民実施冠事業補助金について、令和 7 年度実績は 2 団体、計 10 万円が支給されているが、令和 8 年度は 3 団体の予算とした積算根拠を伺いたい。

マンホール の 件 について、下水事業の啓発のひとつであると認識している。水道事業は生活に密着しているため市民の関心が高い一方で、下水事業は汚水処理に関わるため、なかなか関心が低いのが現状である。こうした啓発活動を通じて、市民の方々が下水道事業に関心を持っていたけ る よう 願 っ て お り、市民が下水道事業の重要性や管理体制について理解を深めることが重要だと考える。

市長公室長

シティプロモーションの考え方として、その目的は移住よりも、市への愛着度を高めて定住していただくこと、市民を大事にしようということ核としている。

この効果の検証については、実際は何人増えたというものではなく、市の総合計画や総合戦略の中で、住み続けたいか、町に愛着があるかななどの市民のアンケートを取っている。

この数値を判断基準としているが、結果として現在のところ上がっているという状態。

個別に成果を検証することは非常に難しいため、効果の検証としては、市への愛着ということになっている。

また、令和 7 年 2 月に第 3 期のまち・ひと・しごと人口ビジョン総合戦略を策定しており、それに基づいてプロモーションしているところ。第 3 期の人口ビジョンとしては、人口のピークは 2040 年（令和 22 年）に 5 万 3000 人としているところである。これを維持していくことが大変難しいため、目標としては 2060 年（令和 42 年）の段階で 5 万人を維持できるような市にしてい く こ と を 目標としている。

秘書広報課

市制施行 20 周年記念事業における市民実施冠事業補助金について、令和 7 年度の実績としては、ご説明の通り 2 団体に補助金を交付したており、予算としては、1 団体あたり 5 万円、2 団体分を計上していたところ。

この補助金は、実際に補助対象となるイベントの実施期間が、カウ

	ントダウン期間の１月１日から３月６日までの約２～３ヶ月間という短期間に限定されていたため、条件に合致する団体が少なく、結果として２団体への交付となった。 令和８年度については、募集対象となるイベントの実施期間が５月１日から記念イヤーの最終日である１２月３１日まで、約８ヶ月間の周知期間を設けており、この期間中に実施されるイベントが補助対象となるため、令和７年度の２団体という実績を踏まえ、１団体増となる３団体分の予算を計上したところ。 さらに、より多く活用していただけるよう、令和８年度は１団体あたりの補助額を５万円から１０万円に増額した予算を確保している。広報紙の５月号に掲載した通り、現時点では申請の締め切りを９月３０日としている。万が一この期限までに申請数が大幅に増加し、予算枠を超えるような状況になった場合には、その都度、関係部署と連携し検討させていただく。 上下水道課 下水道事業について、埼玉県八潮市での事故なども踏まえ、今後、整備の延長に伴い維持管理等のコストが増大していくことが見込まれている。 こうした状況から、事業推進と今後の計画立案においては、採算性も十分に考慮しながら進めてまいりたいと考えているところ。また同時に、PR活動にも注力し、市民に対して下水道事業の重要性や役割について理解を深めていただき、そのイメージ向上を図るべく、今後も積極的に取り組んで参りたい。 以上
そ の 他	傍聴人：なし